

皆様お元気でおすごしでしょうか。この夏、北半球中緯度地方―ヨーロッパからロシア西部、シベリア東部と中国北部、アメリカ東部、日本の東武と北部―は猛暑に教われました。炎天下で作業をしていますと全身から汗が吹きだしてきて、シャツは水をかぶったようにビショビショになり、日に照らされて乾いては、また濡れる、のくり返しでやがてひどい臭いにおを発してきます。時々冷水で顔を洗ってのぼせをさまさないとめまいがしてきます。道路工事や交通整理をしている人はよく続けられるものだと感心します。

外へ出ると、いたるところにサルスベリの花が見事に咲いている目につきます。サルスベリは南国原産の樹木ですから北国では冷夏には咲ききれずに終ってしまうこともありませんが今夏は樹冠に盛りあがるようにたっぷりと咲いています。しかも、花色も、花房の形や大きさ、樹形までもさまざままで変化に富んでいることに気がつきました。以前は岩手県の中々北部ではサルスベリの木はめったに見かけませんでしたから大きな変わりようです。

ところで、地球温暖化CO₂原因説の根拠となった論文が、データをデッチあげた信用できないものであることがばれてしまい欧米では大騒ぎになっているようです。その経過を追った本を読みますと、地球温暖化CO₂原因説は世界の科学研究史上に類を見ない、大規模で悪質な陰謀であったことがわかります。この陰謀がここまで拡大し長期化したのは、この説に乗じて利益を得ることのできる人々が、学界、役所、政治家、企業、マスコミ、教育関係、NPOなどに広範囲に存在したからです。暑い夏を吹き飛ばす、背筋が寒くなるような話です。2010・8・15